

2 将来ビジョン・基本目標

平成 26 年（2014 年）4 月に策定した「森林と林業・木材産業の長期ビジョン」において、2040 年の原木生産量を 80 万 m^3 にするという目標を設定しました。

この目標は、原木の県内需要の予測を踏まえ、新たな手法や技術の導入をベースとした健全な林業経営に必要な生産量であり、循環型林業の実現によって産業発展及び環境保全の両立を目指すものでした。

昨年度（令和元年度）、利用期を迎えたスギ・ヒノキを中心とした森林の主伐を更に促進し、循環型林業の定着・拡大を図ることとし、この原木生産量 80 万 m^3 の目標達成時期を 2040 年から 10 年前倒して令和 12 年（2030 年）としました。

① 将来ビジョン

令和 12 年の原木生産量 80 万 m^3 （基準：62.8 万 m^3 （平成 30 年））

② 計画期間(令和 2 年度～令和 6 年度)における目標

令和 6 年の原木生産量 71.4 万 m^3

目標達成に向けて、まずは森林経営の収支を改善する必要があり、林業の生産現場における低コスト化を進めつつ、最も高い価格で取引される製材用原木の需要を拡大し、森林経営の収益力を強化させることで森林所有者の森林経営意欲を高めます。

同時に、原木生産・増産を支える林業就業者を確保することが重要であり、魅力ある職場環境づくりを進め、島根林業全体が 3 K（きつい・汚い・危険）から脱却することが必要です。

（1）林業のコスト低減

原木生産と再生林の低コスト化により、林業の植林から伐採までの 1 サイクルの生産コストを、従来の作業モデルから 15%以上低減させます。

（2）原木が高値で取引される環境整備

製材用原木の需要増と林業事業体の供給体制の整備により、県内原木生産のうち製材用として取引される割合を現状の 12%から 17%以上に増加させます。

（3）林業就業者の確保

原木増産と伐採後の適切な再生林を円滑に実現するため、新規林業就業者の確保と林業事業体の魅力向上等を通じて、林業就業者を現状の 953 人から 1,072 人に増加させます。